



2020年度 町田第二地区 市政懇談会

次 第

[日時] 2020年10月21日 (水) 18:00~19:30

[場所] 町田市庁舎 市民協働おうえんルーム

司会進行： 市民協働推進担当部長 大貫 一夫
町田第二地区町内会・自治会連合会 副会長 西山 忍

○ 連合会長の挨拶

町田第二地区町内会・自治会連合会 会長 中 一登

○ 市長の挨拶

町田市長 石坂 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 都市計画道路事業について

【道路部】

2 小型乗合交通の実証実験について

【都市づくり部】

3 登下校時の警察官の立ち会いについて

【防災安全部】

4 コロナ禍における避難施設について

【防災安全部】

5 「町田シバヒロ」のその後について

【政策経営部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 町田第二地区町内会・自治会連合会 副会長 加藤 治一郎

2020年度 町田第二地区 市政懇談会
議事録(要旨)

[日 時] 2020年10月21日(水) 18:00～19:30

[場 所] 町田市庁舎2階 市民協働おうえんルーム

[出席者] 町田市長 石坂 丈一
道路部長 神蔵 重徳
都市づくり部長 萩野 功一
防災安全部長 篠崎 陽彦
政策経営部長 小池 晃
市民部市民協働推進担当部長 大貫 一夫
町田第二地区町内会・自治会連合会長 ほか14名
事務局 市民部市民協働推進課 5名

司会進行：市民協働推進担当部長

町田第二地区町内会・自治会連合会副会長

- 町田第二地区町内会・自治会連合会長の挨拶
- 市長の挨拶
- 職員の紹介
- 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 都市計画道路事業について

(1) 町田都市計画道路3・3・36号相原鶴間線の木曾団地南交差点から町田市民病院付近間の早期完成を強く願っています。該当の都市計画道路が都道であることは承知していますが、現在の進捗状況、完成予定時期、また完成を早めるために市として取り組んでいることなどを教えていただきたいです。

(2) 2007年10月に木曾・山崎団地区間が開通し、みどりヶ丘自治会の中央通りが抜け道として使われるようになりました。時間帯によってはおびただしい数の車が通り抜けるようになり、住民の安全が脅かされていると感じています。2019年11月には事故も起きています。

現在、自治会内道路の2カ所で町田警察の方々が一時停止違反の取り締まりを頻繁に行ってください、感謝しています。自治会としても取り組みを行うべく、通り抜ける車を減らすことができた成功例などがあれば、教えていた

だきたいです。

【回答】

道路部長

(1) 「町田都市計画道路3・3・36号相原鶴間線について」ですが、現在東京都が本町田小南側を通る町田294号線と町田三中の北側を通る町田152号線が接続する一部区間において、電線共同溝工事や、橋梁区間において、東側車線の橋桁設置の工事を進めております。

今後は、残りの電線共同溝工事や、橋梁区間の西側車線の橋桁設置工事及び街築工事を進めていくと伺っております。また、本路線の事業認可期間は2024年3月31日までとなっております。

町田市としても本路線の早期整備が必要と考えており、2020年6月には市長・副市長から東京都南多摩東部建設事務所の所長・副所長へ、早期整備について要望するとともに、進捗について随時情報共有を図っております。

(2) 「みどりヶ丘自治会の中央通りが抜け道として使われている件について」ですが、この道路は町田街道から鎌倉街道を結ぶ市道町田152号線になります。周辺住宅地の道路と比べ道幅が広く交通量が多い道路となっておりますので、通過する車両の抑制は非常に難しいと考えております。この道路を抑制すると周辺住宅地の道路に車両が流れていくことが考えられ難しい状況です。

現在事業中の都市計画道路を含めた周辺の都市計画道路が整備され、道路ネットワークが形成されることで、将来的には交通量の低減が期待できると考えております。また、地域で実施されている通学児童の見守り活動は、運転手に対する注意喚起にもなりますので、継続して実施することで、より安全性の向上が図られると考えております。

町田市としても2021年度に実施を予定している本町田小学校の通学路点検など、引き続き学校やPTA、町田警察署と連携して、交通安全対策を行ってまいります。

《質疑》

みどりヶ丘自治会

都道の抜け道となっており、完成を13年待っております。先週も事故が起きていますし、切羽詰まった状況であると思っております。自治会が行える交通事故を防ぐ良い取り組みがあれば是非教えていただきたく思います。また、どこが抜け道かという点、本町田小側から、みどりヶ丘自治会の中央通りを市民病院方面へ行く道になります。

道路部長

確かに古淵方面から渋滞が続き、住宅地を抜け道として利用されていることは認識しております。住宅地の中の規制については、住民の皆さんの利便性と安全性のバランスが重要だと思います。例えば、朝の時間帯の交通規制、一方通行などもありますが、沿道住民の同意が必要になります。あとは、安全性を高める意味で路面標示、看板を取り付けることもできると思います。一番効果的などころを探す必要がありますが、地域の方々にご相談させていただきながら進めていきたいと思っています。

旭町二丁目町内会

路面表示や看板設置を早くやってもらいたい。また警察に相談をすることもあるので、是非市も連携してスピード感を持って取り組んでもらいたい。

道路部長

どのような対応ができるのか早急にスピード感を持って対応いたします。改めて会長にご相談いたします。また、本町田小学校の通学路点検などへもご協力をお願いいたします。

2 小型乗合交通の実証実験について

2018年度市政懇談会でも答弁のあった、本町田地区の小型乗合交通導入について、実証実験後の見通しについて、お聞かせください。

【回答】

都市づくり部長

本町田地域における小型乗合交通の実証実験運行は、タクシー車両を用いた定時定路線型の路線で、2019年10月1日から12月25日までの、土日祝日を除く平日のみ59日間、1日10便の運行を行いました。運行経路は、町田市民病院を起点とし、市民病院正門を左折し、町田三中西交差点を右折、町田第二高齢者支援センター北側を通り鎌倉街道に出て、菅原神社交差点、旭町交差点を經由し、町田市民病院へ戻るルートで、一周約4.6キロメートル、所要時間は約22分で行いました。

実証実験の結果といたしましては、合計利用者数300人、1便あたりの平均利用者数は、約0.51人で行いました。

今後につきましては、実証実験運行の結果と、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、人の移動の変化や、ソーシャルディスタンスの確保など、新たに求められる生活様式を勘案し、運行する車両の適正性をはじめとした、公共交通サービスのあり方について、引き続き地域協議会と検討してまいります。

《質疑》

旭町二丁目町内会

今度、小田急が山崎団地で実証実験を行うと聞きました。できれば範囲を本町田に広げてやってもらいたい。最初無料ということだが、あとから有料になると抵抗がある気がします。

都市づくり部長

小田急電鉄とJR東日本が共同で大きめのワゴン車タイプの車両を使って実証実験をすると聞いています。乗車ポイントがいくつかありまして、アプリで事前予約して利用できるというものです。範囲の拡大については実験段階なので、次の課題になってくるかと思います。

市長

他の市ですが、アプリやAIを使って交通利便性を高めることやっています。民間企業がやっていることが多いですが、地域の新しい交通をどのようにするか行政も考えなくてはいけない。

3 登下校時の警察官の立ち会いについて

森野南交差点の交番を撤去する際、この場所は車の往来が激しく危険を感じることから、交差点に警察官が立ち会うという条件で、撤去について合意していました。せめて子どもの登下校時だけでも警察官が立ち会うよう、町田市から町田警察署に働きかけていただきたいです。

【回答】

防災安全部長

町田警察署に確認したところ、2017年の旧森野交番廃止に関する住民説明会において、「森野南交差点で児童の登下校時間帯に警察官が警戒する」と説明があったとおりで、「現在も森野南交差点における警察官による警戒は行っており、今後も継続予定である」とのことでした。しかしながら、「110番通報などの事件・事故対応により、その時間帯に不在のこともあるのでご理解いただきたい」とのことでした。

町田市といたしましては、地域の皆様の声について、警察に改めてお伝えしたいと思います。

《質疑》

森野五丁目自治会

ここの交差点を歩車分離にできないか。十数年見ているが、何度もヒヤリ

ハットを目撃しています。保護者としては危ない状態が続いていくのは何とかしてほしい。

防災安全部長

車両と歩行者の通行を信号のタイミングを分けるということについては、警察に伝えていきます。

森野五丁目自治会

署名運動をして警察に頼っていますが、なかなか動いてもらえません。

市長

東京都の交通に関しては、各警察署には基本的に権限がなく本署である警視庁が決めています。神奈川県警ですと、車両の信号と歩行者の信号を別にすることを良しとしていますが、警視庁はやってくれません。今の話は信号の切替で歩車分離をしないと解決しないと思います。しかし、鎌倉街道の大きな道路の流れを止めたくないという考えもありますので、難しいと思います。

4 コロナ禍における避難施設について

コロナ禍での避難施設運営について、様々な検討がなされていると聞きます。当地区には、他地区より避難施設が多いと思いますが、「3密」を避けての避難施設では限度を感じております。中央公園、野球場なども視野にいった避難所（テント等を張れる、車両で避難できる）を考えられないでしょうか。「町田シバヒロ」の利用も考えられるのではないのでしょうか。

【回答】

防災安全部長

町田市では、避難施設開設、運営について検討し、今年の出水期前から、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた対応をすることとしました。具体的には、感染防止対策を想定した避難施設運営に必要な資器材をコンテナボックスに収納し、避難施設開設キットとして全避難施設に配備するとともに、避難者の状況に応じて体育館以外の教室などの部屋も使用することとした等です。

ご提案の、市が管理する屋外スペースでのテントの活用や車両での避難についてですが、地震災害時には東京都の条例により、車両避難は禁止されておりますので、ここでは、風水害時につきまして、ご説明いたします。

まず、町田中央公園についてですが、この公園は避難広場として指定をし

ておりますが、隣接した市民球場をヘリコプター発着可能地点としておりますので、一時避難をする広場としての利用以外はできません。

また、「町田シバヒロ」につきましては、周囲の町田第一小学校、町田第一中学校の地震災害時における避難者は感染症対策を行った場合にも収容できる想定をしておりますが、避難スペース以外の利用も含めまして、災害時における活用につきましては、研究課題とさせていただきます。

《質疑》なし

5 「町田シバヒロ」のその後について

2017年度にも議題で取り上げましたが、「町田シバヒロ」の今後の方向性について教えてください。

【回答】

政策経営部長

「町田シバヒロ」についてでございますが、2014年度に広場の一般開放をしてから、6年が経過しました。

3年前、2017年度の市政懇談会では、「町田シバヒロ」は、「賑わいを創出する拠点、人々が憩い、交流する空間として成果を上げており、当面は現在の芝生広場として活用していきたい。」また、「将来的な活用については、そろそろ検討を始めなければいけないと考えている。」とお答えしました。

そこで、現在はといいますと、町田市では、老朽化してきた市内全体の公共施設について、その見直し、再編を検討しております。「庁舎跡地活用基本構想」で活用の考え方をお示しした旧本庁舎と旧中町第三庁舎の跡地、具体的には今の「町田シバヒロ」と「新産業創造センター」の建物になりますが、これらにつきましても、公共施設再編の対象に含めて、今後の方向性について、検討を行っているところでございます。

それでは、本日配布させていただいた、「公共施設マネジメント情報紙ぷらっと第5号」をご覧ください。こちらは7月1日に新聞折込みで配布したものでございます。

中面をご覧くださいと、現在検討を行っている2つの取組を紹介しております。オレンジ色の枠の「トピック1」が、健康福祉会館と保健所中町庁舎の集約・建替えです。そして、「トピック2」が、木曽東にある教育センターの複合化・建替えについてです。これらは、市の財政負担の軽減を目指して、民間事業者と連携しながら建替えることを想定しております。

「トピック1」の保健施設の建替えでは、地図にもあるとおり、市有地の

5ヶ所を、建替え候補地としております。その1つが「町田シバヒロ」になります。ちょうど今、民間事業者から、ご意見や活用のアイデアを伺っているところでございます。

いずれにしましても、現段階では、様々な可能性を調査、検討しているところでございますので、市民の皆様へは、適宜、情報提供を行い、また、ご意見をいただきながら、「町田シバヒロ」の方向性を決定していきたいと考えております。

《質疑》

中町中央町内会

さるびあ図書館の存続については、署名活動をし、市議会でも存続の承認をいただいています。その後、中央図書館と統合されることを漏れ聞きます。移動図書館も行っている非常に重要な場所です。是非、存続をお願いします。

政策経営部長

公共施設の再編を進めていかないと将来的な経営が成り立たないことがありますので、難しいことではありますが地域の皆さまには丁寧に説明をさせていただき、進めるべきところは進めていく必要があると思います。

旭町二丁目町内会

シバヒロのフェンスが低い気がします。ボール遊びをするにはもう少し高くする必要があると思います。

政策経営部長

状況をよく調べてできるところは対応したいと思います。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

新型コロナウイルスの対応策について、いくつか報告をします。

一人10万円の特別定額給付金についての、予算は432億円でした。9月に締め切りましたが、まだ申請のない方に通知を出しているところです。

同じ時期に子育て世帯への臨時特別給付金を支給しました。そのあとに、6月にはひとり親のご家庭に特別給付金を支給しました。これは、国の制度と市の制度になります。

さらに中小企業の方の家賃補助事業を5月と7月に行いました。合わせて予算が約15億円でした。市では売上が15%以上減った方を対象にしてい

ました。

それから、市内の病院4か所に合計2億円の支援をしました。また、市民病院も収入が減少していますので、5億円を出しています。国も臨時で診療報酬を引き上げていますが、どこの病院も経営が難しい状況です。

それから、4月27日には町田市医師会の全面的な協力をいただき、多摩地域では1番目、都内だと8番目になりますが、旭町の体育館の地下駐車場にPCRの地域外来検査センターを開設しました。今は、森野に引越して続けています。1日30から40件くらいの検査をしています。

また、介護サービス事業者へは2億8千万円、障がい福祉サービス事業者には1800万円の支援を行いました。

それから、10万円の特別定額給付金は4月28日以降に生まれた子は対象外でしたが、追加で来年の4月1日生まれまでは、対象となりました。

それから、ふるさと納税の制度で寄付をいただいたものを医師会に1000万円、歯科医師会に500万円をお渡ししました。また、学校にはサーモグラフィーを整備しました。

それから、キャッシュレス決済プレミアムポイント事業を12月から1月に行います。支払代金に対して20%プレミアムがつきます。会社はPay Payがやります。他市では紙の商品券でやっているところがありますが、町田市は国の方針もありますので、キャッシュレスでやっています。キャッシュレスでいうと国はマイナポイント事業で5千円のポイントがつく事業をやっています。

一番大変なのは保健所でした。感染者ひとりひとり感染経路を確認する必要がありましたので苦労していました。町田市も1日あたり2件程度感染者が出ていますので土日もなく頑張っています。保健所には他部署や東京都から応援をしてもらい業務を続けています。

オリンピックパラリンピックについては今のところ曜日に合わせて1日ずらした日程を予定しています。キャンプも予定しています。ただし、海外から来る選手の感染症対策もあるので大変になると思います。

《質疑》

中町中央町内会

さきほどの件ですが、さるびあ図書館をなんとか存続してもらいたいのと、シバヒロについて、多くの方が利用されていて良いのですが、ボール遊びをする子どもも多くて町田街道に出ないように気を付けていますが、やはりフェンスが低いです。

市長

実はシバヒロのフェンスは、小学校の高学年以上の子は町田街道側ではボ

ール遊びをしないという前提でフェンスを作っています。そうでないと低学年や幼稚園の子との接触事故や高学年の子が占領してしまうこともあるので、その周知をしていくということで、使い方をなんとかしていかないといけないと思います。

旭町二丁目町内会

高学年以上の子たちが安全にボール遊びできる場所がありません。学校も使えませんし、公園もありません。よろしくお願いします。

都市づくり部長

近辺ですと、芹ヶ谷公園があります。上部のほうは広く使えますし、下に降りるとグラウンドもあります。あとは、旭町の町田中央公園などの限られた場所を適宜活用していただきたいと思います。

本町田町内会

登下校時の警察官の立会いについて、登校時の見守りをしていますが、迂回してきた車に対してどこまで抑制をしてもよいのか。また、警察官の立会いは可能なのか。

道路部長

ルールを守らないドライバーに対してですが、直接言うとトラブルのもとになりますので、警察に任せたほうがいいです。町田警察にご相談いただければと思いますし、場合によっては市も一緒に話をするなど歩調を合わせて協力していけるとと思いますのでよろしくお願いします。

○閉会の挨拶

町田第二地区町内会・自治会連合会 副会長